平成３０年度新規研究課題

課題番号（11）
課 題 名：山口県に適応した早生樹の開発
研究期間：平成30～34年度
研究担当：林業技術部林業研究室

１　研究の背景

森林が持つ公益的機能の高度発揮に対するニーズが高まる中、林業の採算性悪化等により、適切な森林施業が行われない人工林も見受けられる。

一方で、今後はスギ・ヒノキ造林地の成熟に伴う主伐の増加が見込まれるが、上記の実状を背景とし、主伐後に再造林が行われないケースも多く、森林が持つ公益的機能の高度発揮及び森林資源の循環利用への支障が懸念される。

このような中、従来の造林樹種よりも成長が早く、比較的短伐期で収穫が可能な樹「早生樹」[1)]が、林業の低コスト化の観点からも近年着目されており、その育成技術や用途開発に関する試験研究が全国各地でスタートしている。

２　目的

本県の気候風土に適した早生樹を見出し、育成技術を確立する。

３　研究内容

・早生樹の本県への適応性の検証
・早生樹の育成技術の検証・確立
・新たな早生樹候補の選抜及び有用性の検討

４　研究のポイント

従来の造林技術を拡充する新たな選択肢として、本県に適応した早生樹による低コスト造林技術を確立し、再造林の推進に寄与する。

脚注　１）早生樹：従来からのスギ・ヒノキ等の造林樹種に比べて成長が早い樹で、短伐期で収穫が可能なことや、その成長速度を活かした下刈り回数の低減等による低コスト化が期待されている。現在利用が検討されている主なものとして、コウヨウザン、センダン、チャンチンモドキ等がある。

平成 30 年度新規研究課題

山口県に適応した早生樹の開発（H30～34）

林業技術部林業研究室

背景

○スギ・ヒノキ造林地の成熟に伴い主伐が増加の見込み

しかし

○林業の採算性悪化等を背景に主伐後に再造林が行われないことによる「森林の公益的機能の高度発揮」及び「森林資源の循環利用」への支障が懸念

このような中

○スギ・ヒノキに比べ成長が早く、比較的短伐期で収穫が可能な「早生樹」が、林業の低コスト化の観点からも着目されている

●本県に適応した早生樹の選抜
●本県に適応した早生樹育成技術の確立

既存林調査・種子採取

育苗試験

試験植栽・生育調査

早生樹を活用した低コスト造林技術の確立

再造林の推進に寄与